

はじめに

千歳科学技術大学 学長 川瀬 正明

27年度は学校教育法改正による新たな大学運営が開始されたこと、高等学校の新教育課程で学んだ受験生が入学するなどから、大学の教育体系や組織運営体制の変更などを行いました。具体的には教授会および研究科委員会は審議すべき事項が減少したため開催を不定期とし、新たに学内の意思の疎通を図る目的で全教員が参加する学事連絡会を毎月開催することとしました。

また、本学は平成10(1998)年に光科学に関わる教育研究拠点の形成を目指して開学しましたが、その後の領域拡大に鑑み、この時期にあわせて現状の領域に合致した学部学科名称への変更を実施し、あらたに社会のニーズにあわせた学科設置の手続きを進めました。具体的には「総合光科学部」を「理工学部」へ改称し、「バイオ・マテリアル学科」を「応用化学生物学科」に、「光システム学科」を「電子光工学科」に名称変更して、新たなスタートを切りました。また、「グローバルシステムデザイン学科」については、これからの大量情報時代を見据え教育課程に見直し、新たな学科として設置する届け出を行い、受理されたことから学部・学科改組が一段落しました。

また、大学間連携共同教育推進事業「学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進」参加8大学の代表校として事業推進に努めました。

特に平成27年度は開始4年目となり、各WGの取り組みを完成させる段階に入り、学生参加状況もプレイスメントテストにのべ約2万人、到達度テストに約1万人の規模に達し、最終年度に向けて順調に進捗しました。

本学は千歳市を母体とする公設民営の形態で設立された経緯から、開学当初から地域貢献には特に力を入れており、教員による公開講座、学生プロジェクトチームの理工工房による理科実験授業等のほか、道内最大規模で推進している高等学校との連携は平成27年度末で58高校と協定を締結し、活発な活動を継続しています。さらに先端的ナノテクノロジー研究設備の外部共用を進める文部科学省ナノテクノロジープラットフォームの実施機関として「分子・物質合成プラットフォーム」を構築し、企業等への技術支援を行っています。また、本学を核に産学官共同研究システムの構築を目指す特定非営利活動法人ホトニクスワールドコンソーシアム(略称:PWC)と連携をとって各種研究プロジェクトを推進しています。

大学を取り巻く環境は一層厳しさを増していますが、建学精神の「人知還流」、「人格陶冶」を具現化すべく、教職員一丸となって学生の教育、研究、地域貢献に邁進しておりますので、忌憚のないご意見、ご助言をいただければ幸いです。

平成28年11月